

# 日本漢方協会通信

28年 12月

## 第36回 漢方学術大会が開催されました!

～28年11月20日(日) 於 慶応義塾大学・芝共立キャンパス 200名以上の参加で成功裏に開催～



特別講演 I  
木村 容子 先生



特別講演 II  
清水 虎雄 先生



分科会発表 1  
木俣 高博 様



分科会発表 2  
河合 元宏 様



分科会発表 3  
岡崎 洋子 様



分科会発表 4  
熊井 啓子 様



分科会発表 5  
小林 御幸 様



分科会発表 6  
高山 留美 様



一般発表 1  
石綿 智恵 様



一般発表 2  
伊藤 亜希 様



一般発表 3  
今井 淳 様



一般発表 5  
庄司 良文 様



一般発表 6  
佐藤 喜和子 様



一般発表 7  
米光 康 様



一般発表 8  
川崎 武志 様



一般発表 9  
笠原 良二 様



一言治験例発表 1  
庄子 昇 様



一言治験例発表 2  
八木 多佳子 様



一言治験例発表 3  
高山 留美 様



一言治験例発表 4  
吉野 道夫 様

平成28年11月23日、御茶ノ水湯島聖堂内にある神農廟において、恒例の「神農祭」が開催され、日本漢方協会からも、今井会長他、三上、小根山、杉山、渡辺、岡崎、飛奈、中村(敬称略)の各役員が出席した。

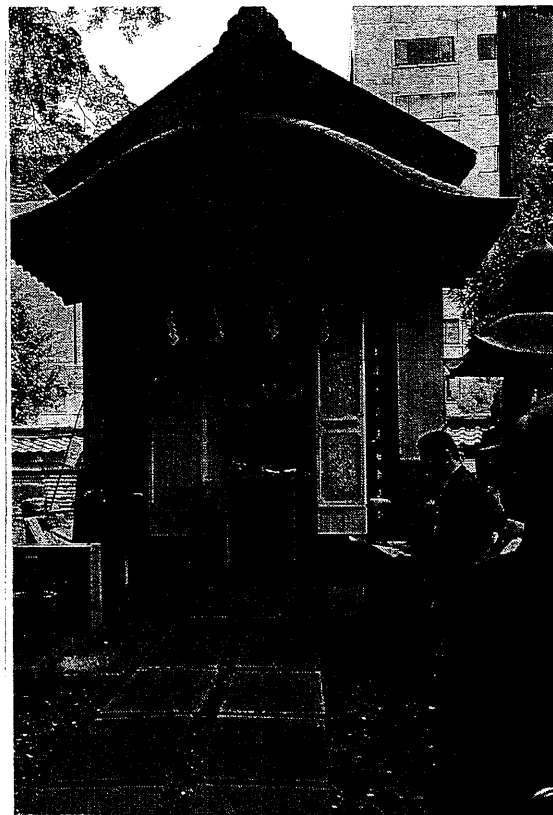
「神農」は古代中国に伝承される三皇の一人であり、医療・農耕・商売の神とされている。毎年勤労感謝の日には神農廟がご開帳され、斯文会と神農奉讃会各団体が式典が執り行われる。神農奉讃会は、日本漢方協会、日本東洋医学会、東亜医学協会、文京区薬剤師会、千代田区薬剤師会、方術信和会、温知会、日本医史学会、日本内経学会、千葉大学大学院医学研究院和漢診療学、漢方三考塾の十一団体である。

今年度の記念講演は、元東京国立博物館特別研究員・岩間真知子先生により「茶と医薬ー神農と陸羽を中心にー」であった。神農は「一日に七十二毒にあたるも茶で解いた」という説があるそうである。神農が木陰で休んでお湯を沸かしていると、風が吹いて葉が落ちたが、その湯を飲むと美味しく茶の木だったという。神農本草経では、「苦菜」と記され、消化促進、元気回復、眠りを少なくする、肥満や老化を防ぐなどの効がある。本草を学ぶのにとっては特に興味のある講演であった。

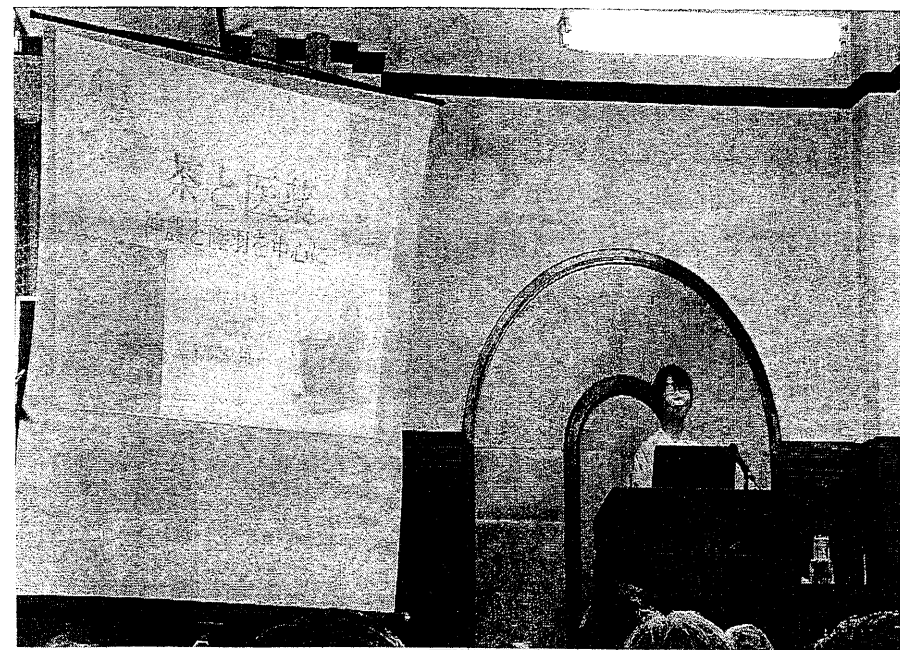
また、神農祭では持ち回りで幹事を担当することになっており、来年度は日本漢方協会が当番幹事に当たることになった。皆で力を合わせて、今年以上の神農祭にしていきたいものである。



挨拶 今井会長



神農廟



記念講演「茶と医薬ー神農と陸羽ー」

元東京国立博物館特別研究員 岩間 真知子先生



一般社団法人日本漢方協会は  
エンブレムを設定しました。

日漢協

【エンブレムには意味があります】

☆赤色と青色は、陽と陰を示し、同時に体内の動脈と静脈を示します。

☆白・赤・青は体内を巡る気・血・水を示します。

☆赤と青の回転は生命の維持を示します。

☆全体の楕円形は生命を宿す種子を示します。

これから日漢協は幾つもの芽が生じます。

☆日漢協は一般社団法人日本漢方協会が創立以来46年間使い続けているの略称です。